

■今井邦子 昭和初期、文壇の花から独自の歌境開き、女流歌人の第一人者と称された。

いまいくにこ

帝国議会始・1890＝ 徳島市で徳島県立尋常師範学校校長山田邦彦の娘に生まれる。母は徳島藩漢学者の娘だけ。本名くにえ。

大本教・・・1892＝ 2歳：父母と離別、父の郷里長野県下諏訪の祖母のもとに預けられ、

日清戦争始・1894＝ 4歳：

Bushidou・・・1899＝ 9歳：

老いた祖母を見守りながら、

少女期より文才にたけ、

日露戦争終・1905＝15歳：この年刊行が始まった、文学少女憧れの文芸雑誌{女子文壇}に詩を投稿して、度々受賞、

町にある教会に通い、受洗。西洋文化に接したことが資質をさらに伸ばしたと思われる。

アヲヲ創刊・1908＝18歳：諏訪高等学校卒業。祖母が死去したため、父の任地北海道函館に赴くが、

伊藤博文暗殺1909＝19歳：親に結婚を強いられて、

韓国併合・・・1910＝20歳：家出し、詩人河井醉茗を頼って単身上京。父危篤の報で帰郷して看病するも、父が死去すると、再び家出し

大逆事件判決1911＝21歳：同社の今井健彦と結婚。作歌を始めるや、

明治天皇没・1912＝22歳：*創作4編を含む歌文集「姿見日記」を出版。

21ヶ条要求・1915＝25歳：長女を出産。*歌集「片々」を刊行。この間、岩野泡鳴らの十日会に参加したり水野葉舟・江間修らと交際し、文壇で華やかな存在となる。

民本主義・・・1916＝26歳：島木赤彦に師事、アララギ会員となる。歌集「光を慕いつつ」には窪田空穂・太田水穂も序を寄せる。

ロシア革命・1917＝27歳：

この頃、長男出産時のリウマチにより右足を障害。

原敬首相暗殺1921＝31歳：

円本時代始・1926＝36歳：赤彦の死去後は、斎藤茂吉について作歌を続け、

この頃、夫に愛人あるのを知って、二児を置いて家出、京都の西田天香の{一灯園}で修行後、帰宅。

満州事変・・・1931＝41歳：歌集「紫草」を刊行。

国際連盟脱退1933＝43歳：随筆集「茜草」、

帝人疑獄事件1934＝44歳：アララギを離脱し、

芥川直木賞始1935＝45歳：

二二六事件・1936＝46歳：随筆集「秋鳥集」。*歌誌{明日香}を創刊主宰、

日中戦争始・1937＝47歳：

多くの女流歌人を育てるとともに、独自の歌境を開き、昭和初期女流歌人の第一人者と称され、

第二次大戦始1939＝49歳：随筆集「歌と随想」、

大政翼賛会・1940＝50歳：随筆集「万葉読本」「樋口一葉」、

日米開戦・・・1941＝51歳：随筆集「和琴抄」「螢と雪」、

・・・1942＝52歳：随筆集「女性短歌読本」、

年金+総武装 1944＝54歳：随筆集「清少納言と紫式部」、

敗戦・・・1945＝55歳：下諏訪の実家に疎開し、歌誌休刊をやむなくされるも、敗戦後、再び活発な活動をはじめたが、

新憲法施行・1947＝57歳：随筆集「新修女性短歌読本」、

極東裁判判決・1948＝58歳：*歌集「こぼれ梅」を刊行直前に、心臓麻痺で、没した。邦子が愛した諏訪湖のほとりに葬られた。没後「今井邦子短歌全集」が刊行された。